

昭和十五年十二月十七日 印刷

昭和十五年十二月廿三日 發行

判例借地法借家法

定價金五圓

編者、小林 寬



發賣所 東京市神田區 新 光 閣
淡路町二ノ七

振替東京七四三七〇番

電話 2010 番
神田 2011 番

發行者及 東京市豊島區西巢鴨町三ノ七一三
發行所 三到社 門 屋 樹 三

印刷者 東京市四谷區本村町四
玄眞社 鈴木芳太郎

判例借地法借家法

東京 新 光 閣

東京區裁判所
監督判事 上 田
法 學 士 小 林
寬 編
操 序

添付資料7

○借地法及借家法ノ施行期日
及施行地區ニ關スル件

(大正十年五月十三日
勅令第二百七號)

左ノ地區ニハ大正十年五月十五日ヨリ借地法及借家法
ヲ施行ス

- 東京府
- 荏原郡ノ内
- 品川町、大崎町
- 豊多摩郡ノ内
- 澁橋町、大久保町、戸塚町、千駄ヶ谷町、
澁谷町
- 北豊島郡ノ内
- 南千住町、集鴨町、瀧野川町、高田町、日暮里
町、西巢鴨町
- 南葛飾郡ノ内

吾橋町、龜戸町、大島町、寺島村、砂村

京都府

京都市

大阪府

大阪市

西成郡ノ内

今宮町、鷺洲町、豊崎町、中津町、傳法町

東成郡ノ内

鶴橋町、中本町、天王寺村

神奈川縣

横濱市

兵庫縣

神戸市

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ
於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦
之ヲ適用ス

於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦
之ヲ適用ス

○借地法及借家法ノ施行期日
及施行地區ニ關スル件

(大正十三年八月十二日
勅令第二百七十三號)

左ノ地區ニハ大正十三年八月十五日ヨリ借地法及借家
法ヲ施行ス

- 東京府
 - 荏原郡ノ内
 - 大森町、大井町、入新井町、目黒町、平塚村
 - 豊多摩郡ノ内
 - 中野町、落合町、代々幡町
 - 北豊島郡ノ内
 - 板橋町、王子町、三河島町、尾久町、長崎村
 - 南足立郡ノ内
 - 千住町
 - 南葛飾郡ノ内
 - 隅田町
- 前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ

○借地法及借家法ノ施行期日
及施行地區ニ關スル件

(大正十四年四月十一日
勅令第二百二十五號)

左ノ地區ニハ大正十四年四月十五日ヨリ借地法及借家
法ヲ施行ス

- 愛知縣
 - 名古屋市
- 前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ
於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦
之ヲ適用ス

○借地法及借家法ノ施行期日及施行地區

二關スル件

(昭和十四年十二月二十六日
勅令第八百六十四號)

左ノ地區ニハ昭和十四年十二月二十八日ヨリ借地法及借家法ヲ施行ス

東京市ノ内未タ之ヲ施行セサル地區

京都府ノ内未タ之ヲ施行セサル地區

大阪府ノ内未タ之ヲ施行セサル地區

神奈川県ノ内未タ之ヲ施行セサル地區

兵庫縣ノ内未タ之ヲ施行セサル地區

愛知縣ノ内未タ之ヲ施行セサル地區

廣島縣

山口縣

下關市

福岡縣

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

船橋市

東葛飾郡ノ内

松戸町

茨城縣

水戸市

日立市

栃木縣

宇都宮市

足利市

群馬縣

前橋市

伊勢崎市

桐生市

新田郡ノ内

太田町

高崎市

靜岡縣

山梨縣

甲府市

○借地法及借家法ノ施行期日

及施行地區ニ關スル件

(昭和十五年九月二十四日
勅令第六百二十一號)

左ノ地區ニハ昭和十五年九月二十六日ヨリ借地法及借

家法ヲ施行ス

埼玉縣

浦和市

川口市

北足立郡ノ内

六辻町、蕨町、與野町、大宮町、戸田村

川越市

熊谷市

千葉縣

千葉市

千葉郡ノ内

蕨張町、津田沼町

市川市

○建物保護ニ關スル法律

(明治四十二年五月一日)
法律第四十號

第一條 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃借ハ其ノ登記ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

建物カ地上權又ハ土地ノ賃借ノ期間滿了前ニ滅失又ハ朽廢シタルトキハ地上權者又ハ土地ノ賃借人ハ其ノ後ノ期間ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條 民法第五百六十六條第一項第三項及第五百七十一條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス買主カ契約ノ當時知ラサリシ地上權又ハ賃借權ノ效力ノ存スル場合亦同シ

○地上權ニ關スル法律

(明治三十三年三月二十七日)
法律第七十二號

第一條 本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲其ノ土地ヲ使用スル者ハ地上權者ト推定ス

第二條 第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者ノ權利ヲ害スルコトナシ

附 錄

○借地借家調停法

(大正十一年四月十二日)
法律第四十一號

改正 大正十三年法律第十七號

第一條 土地又ハ建物ノ賃借、地代、家賃其ノ他借地借家關係ニ付爭議ヲ生サタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ前項ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一項ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 當事者義務ノ回避其ノ他不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第四條 爭議ノ目的タル土地又ハ建物カ數個ノ裁判所ノ管轄區域內ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケ

タル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキモ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四條 二 借地借家關係ノ爭議ニ付訴訟カ變屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得

第五條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ變屬スルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ事件カ調停ニ付セラレタルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第六條 裁判所ハ期日ヲ定メ調停申立人及相手方ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第七條 當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ己ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

第八條 調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

附 錄

九

第九條 費用ヲ要スル行爲ニ付テハ當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十條 申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十一條 調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第十四條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ得

第十五條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第十六條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ特別ノ知識經驗アル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ指定ス

之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第二十四條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ爭議ノ目的タル事項及手續ノ費用ニ付適當ト認ムル調停條項ヲ定メ其ノ調書ノ正本ヲ當事者ニ送付スルコトヲ要ス

當事者カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ服シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

當事者カ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二十五條 調停委員會第三條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第二十六條 調停成リタルトキ又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ當事者カ調停ニ服シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ

方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第十七條 調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 調停委員及前條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第十九條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第二十條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第二十一條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ秘密トス

第二十二條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ第六條、第七條第一項但書第二項、第八條但書及第十三條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第二十三條 調停委員會ハ當事者又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ

認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

調停不認可ノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 裁判所ハ調停カ著ク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限り裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十九條 調停ノ申立ヲ爲スニハ手数料ヲ納付スルコトヲ要ス

第三十條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ鑿屬中記録ノ閲覧又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條 第十八條ノ旅費、日當及止宿料並前二條ノ手数料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 調停委員會ノ呼出ヲ受ケタル當事者カ正

借地借家臨時處理法

(大正十三年七月二十二日
法律第二十(六)號)

改正
昭和四年法律第七號
昭和十四年法律第十二號

第一條 本法ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條 地代、家賃、敷金其ノ他借地借家ノ條件カ著シク不當ナルトキハ當事者ノ申立ニ依リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ借地借家關係ヲ衡平ナラシムル爲其ノ條件ノ變更ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ裁判所ハ敷金其ノ他ノ財産上ノ給付ノ返還ヲ命シ又ハ其ノ給付ヲ地代若ハ家賃ノ前拂ト看做シ其ノ他相當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三條 大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ノ借主ハ其ノ建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ新ニ築造セラレタル建物ニ付其ノ完成前賃借ノ申出ヲ爲シタルトキハ他ノ者ニ優先シテ之ヲ賃借スルコトヲ得滅失シタル建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ築造セ

ラレタル假設建築物ノ借主亦同シ
前項ノ申出ヲ受ケタル者申出ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ拒絕ノ意思ヲ表示セサルトキハ申出ヲ承諾シタルモノト看做ス

第一項ノ申出ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第四條 前條ノ場合ニ於テ借家ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ從前ノ賃借ノ條件、建物ノ狀況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ借家關係ヲ定ムルヲ得

第五條 新ニ築造セラレタル建物ニ付第三條第一項ノ規定ニ依リ賃借ノ申出ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ賃借スヘキ建物ノ割當ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ從前ノ建物又ハ假設建築物ノ狀況、借主ノ職業其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ割當ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ裁判所ハ抽籤ノ方法ヲ用キテ割當ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ當事者間ノ衡平ヲ維持スル爲必要アリト認ムルトキハ割當ヲ受ケサル借主又ハ著シク不利益ナ

ル割當ヲ受ケタル借主ノ爲割當ニ因リ著シク利益ヲ受ケタル他ノ借主ニ對シ相當ナル出捐ヲ命スルコトヲ得

第六條 大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ニ居住シタル者カ其ノ建物ノ敷地ノ上ニ假設建築物ヲ築造シタル場合ニ於テ敷地ノ借主カ之ニ同意シタルトキハ其ノ同意ニ付地主ノ承諾ヲ得サリシ場合ト雖地主ハ之ヲ理由トシテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス但シ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 借地ノ上ニ存スル借地人ノ建物カ大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ借地權ハ借地權ノ登記及其ノ土地ノ上ニ存スル建物ノ登記ナキモ之ヲ以テ大正十三年七月一日以後其ノ土地ニ付權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得

第八條 第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ因ル裁判ハ借地又ハ借家ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第九條 鑑定委員會ハ五人以上ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條 鑑定委員ハ特別ノ知識經驗アル者其ノ他適當ナル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付裁判所之ヲ指定ス

第十一條 鑑定委員會ノ決議ハ委員ノ過半數ノ意見ニ依ル

第十二條 鑑定委員會ノ評議ハ秘密トス

第十三條 鑑定委員ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 借地借家調停法第四條ノ二及第五條ノ規定ハ第二條、第四條及第五條ノ規定ニ依ル申立並第六條ノ規定ニ依ル許可ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ調停ニ付スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十五條 第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第十六條 本法ニ依ル裁判ニシテ財産上ノ給付ヲ命スルモノハ執行力ヲ有スル債務名義タルノ效力ヲ有ス

第十七條 本法ニ依ル裁判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規定ニ依ル

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ昭和二十三年四月三十日迄其ノ效力ヲ有ス
本法失効ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○借地借家臨時處理法ノ

施行期日及施行地區ニ

關スル件 (大正十三年八月十二日勅令第七十四號)

借地借家臨時處理法ハ大正十三年八月十五日ヨリ東京府及神奈川縣ノ内借地法及借家法ノ施行地區ニ之ヲ施行ス
前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地借家臨時處理法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

○地代家賃統制令

舊令 (昭和十四年十月十八日勅令第七百四號)

第一條 國家總動員法 (昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ) 第十九條ノ規定ニ基ク地代及家賃ニ關スル統制ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ借地トハ建物所有ノ目的ヲ以テ賃借セラレ又ハ地上權ヲ設定セラレタル土地ヲ謂ヒ借家トハ賃借セラレタル建物 (建物ノ一部タル室ヲ含ム)ヲ謂フ

第三條 借地又ハ借家ノ貸主 (以下單ニ貸主ト稱ス)ハ借地又ハ借家ニ付左ノ各號ノ地代又ハ家賃ヲ超エテ地代又ハ家賃ヲ定ムルコトヲ得ス但シ厚生大臣ノ定ムル事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 昭和十三年八月四日ニ於テ地代又ハ家賃アリタルモノニ付テハ同日ニ於ケル地代又ハ家賃 (其ノ不明ナルトキハ同日以後ノ判明セル最初ノ地代又

ハ家賃) 但シ昭和十三年八月五日以後本令施行前建物ノ増築又ハ改築ニ因リ家賃ニ變動アリタルモノニ付テハ増築又ハ改築ノ工事ノ竣功後ニ於ケル最初ノ家賃

二 前號ニ該當セサル場合ニ於テ昭和十三年八月五日以後本令施行前ニ地代又ハ家賃アルニ至リタルモノニ付テハ同日以後ニ於ケル最初ノ地代又ハ家賃 (其ノ不明ナルトキハ判明セル最初ノ地代又ハ家賃) 但シ其ノ後本令施行前建物ノ増築又ハ改築ニ因リ家賃ニ變動アリタルモノニ付テハ増築又ハ改築ノ工事ノ竣功後ニ於ケル最初ノ家賃

三 前二號ニ該當セサル場合ニ於テ本令施行後ニ地代又ハ家賃アルニ至リタルモノニ付テハ本令施行後ニ於ケル最初ノ地代又ハ家賃

第四條 地方長官前條第一號但書、第二號又ハ第三號ノ地代ハ家賃カ著シク不當ナリト認ムルトキハ地代又ハ家賃ノ減額ヲ命スルコトヲ得
前項ノ地方長官ノ命令ニ依リ減額シタル地代又ハ家賃ハ前條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條各號ニ掲ケル地代又ハ家賃ト看做ス

第五條 地方長官前二條ノ規定ニ依リ許可又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ地代家賃審査會ノ議ヲ經ヘシ地代家賃審査會ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 貸主ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス本令ノ適用ヲ免ルル爲借地又ハ借家ノ借主(以下單ニ借主ト稱ス)ニ對シ借地又ハ借家ノ契約ニ定メサル財産上ノ利益ヲ求ムルコトヲ得ス

第七條 地方長官必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ借地又ハ借家ニ關シ貸主若ハ借主ヨリ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ日出ヨリ日没迄ノ間借地、借家其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ借地、借家ノ契約書其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第八條 第三條乃至第五條ノ規定ハ敷金、修繕費ノ負擔其ノ他地代又ハ家賃以外ノ借地又ハ借家ノ條件ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

第九條 本令ハ國又ハ道府縣カ貸主タル借地又ハ借家ニ付テハ之ヲ適用セス

有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第十三條 本令施行前第三條第一號又ハ第二號ノ地代又ハ家賃ヲ増額シタル借地又ハ借家ニ付テハ貸主ハ厚生大臣ノ定ムル所ニ依リ昭和十四年十一月一日以後ノ分ニ付之ヲ第三條第一號又ハ第二號ノ地代又ハ家賃ニ回復スヘシ

第十四條 前條ノ規定ハ昭和十三年八月五日以後本令施行前ニ於テ裁判、裁判上ノ和解又ハ借地借家調停法ニ依ル調停ニ依リ地代又ハ家賃ノ増額アリタルモノニ付テハ之ヲ適用セス本令施行ノ際現ニ繫屬スル訴訟、裁判上ノ和解事件、借地借家調停法ニ依ル調停事件又ハ借地借家臨時處理法第二條ノ規定ニ依ル事件ニ於テ地代又ハ家賃ノ増額アリタルモノニ付亦同シ前項ノ裁判、和解又ハ調停ニ依リ増額セラレタル地代又ハ家賃ハ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條同一號本文ノ地代又ハ家賃ト看做ス

第十五條 前二條ノ規定ハ敷金、修繕費ノ負擔其ノ他地代又ハ家賃以外ノ借地又ハ借家ノ條件ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

第十條 本令中厚生大臣トアルハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道地方對シ昭和十三年八月四日トアルハ朝鮮ニ在リテハ昭和十三年十二月三十一日、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年九月十八日トシ昭和十三年八月五日トアルハ朝鮮ニ在リテハ昭和十四年一月一日、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年九月十九日トス

附 則

第十一條 本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年十月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本令ハ昭和十五年十月十九日迄其ノ效力ヲ

○地代家賃統制令施行規則

舊令（昭和十四年十月十九日）
（厚生省令第三十三號）

第一條 地代家賃統制令（以下令ト稱ス）第三條但書ノ事由アル場合トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合トス

一 昭和十三年八月五日以後當該土地又ハ建物ニ對スル租稅其ノ他ノ公課ノ負擔ニ付著シキ増加アリタルトキ

二 借主カ貸主ノ縁故者タリシ爲令第三條各號ノ地代又ハ家賃カ特ニ低額ナルモノナルトキ

三 貸主ニ於テ本令施行後借家ニ付増築若ハ改築ヲ爲シ又ハ昭和十三年八月五日以後借地ニ付著シキ改良工事ヲ施行シタルトキ

四 前各號ニ準スル事情其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第二條 令第七條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

第三條 令第八條ノ規定ニ依リ令第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用スル借地又ハ借家ノ條件ハ敷金、修繕費

ノ負擔、疊建具其ノ他ノ造作ニ要スル費用ノ負擔、地代又ハ家賃ノ支拂條件及借主ノ貸主ニ給付スル權利金其ノ他ノ財産上ノ利益ニ關スル條件トス令第十五條ノ規定ニ依リ令第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用スル借地又ハ借家ノ條件ニ付亦同シ

第四條 令第十三條ノ規定ニ依ル回復ハ昭和十四年十一月三十日迄ニ之ヲ爲スヘシ

附 則

本令ハ地代家賃統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ地代家賃統制ノ效力ヲ有スル間其ノ效力ヲ有ス

○地代家賃統制令

改正（昭和十五年十月十六日）
（勅令第六百七十八號）

第一條 國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基ク地代及家賃ニ關スル統制ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ借地トハ建物所有ノ目的ヲ以テ賃借セラレ又ハ地上權ヲ設定セラレタル土地ヲ謂ヒ借家トハ賃借セラレタル建物（建物ノ一部タル室ヲ含ム）ヲ謂フ

第三條 借地又ハ借家ノ貸主（以下單ニ貸主ト稱ス）ハ借地又ハ借家ニ付左ノ各號ニ規定スル地代又ハ家賃ヲ超エテ地代又ハ家賃ヲ定ムルコトヲ得ズ

一 昭和十三年八月四日以後本令施行前ニ地代又ハ家賃アリタルモノニ付テハ本令施行前ニ於ケル最後ノ地代又ハ家賃

二 前號ニ該當セザル場合ニ於テ本令施行後ニ地代又ハ家賃アルニ至リタルモノニ付テハ本令施行後

ニ於ケル最初ノ地代又ハ家賃

前號第二號ニ規定スル地代又ハ家賃アルニ至リタルトキハ貸主ハ之ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第四條 厚生大臣ノ定ムル事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可アリタルトキハ貸主ハ前條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ヲ超エテ地代又ハ家賃ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定メタル地代又ハ家賃ハ前條第一項及前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ前條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第五條 第三條第一項第二號ニ規定スル地代又ハ家賃ニ付テハ厚生大臣其ノ適正標準ヲ定ム

第六條 地方長官第三條第一項第一號ニ規定スル地代若ハ家賃ガ著シク不當ナリト認ムルトキ又ハ同項第二號ニ規定スル地代若ハ家賃ガ前條ノ適正標準ニ照シ不當ナリト認ムルトキハ貸主ニ對シ地代又ハ家賃ノ減額ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ減額シタル地代又ハ家賃ハ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第七條 貸主地代又ハ家賃ノ定ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル變更ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一 金納ヲ物納ニ改メ其ノ他確定金額ヲ以テ定ムルモノヲ確定金額以外ノ方法ヲ以テ定メントスルトキ

二 物納ヲ金納ニ改メ其ノ他確定金額以外ノ方法ヲ以テ定ムルモノヲ確定金額其ノ他別途ノ方法ヲ以テ定メントスルトキ

前項ノ許可ヲ受ケテ變更シタル地代又ハ家賃ハ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第八條 下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ付貸主ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ家賃ノ基準及其ノ借家ノ條件ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ基準及條件ニ依リ定ムル家賃ヲ以テ第三條第一項各號ニ規定スル家賃ト看做ス

第九條 地方長官必要アリト認ムルトキハ第四條第一項若ハ第七條第一項ノ許可又ハ前條ノ認可ニ制限又

ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十條 地方長官第四條第一項、第六條第一項、第七條第一項又ハ第八條ノ規定ニ依リ許可、認可又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ地代家賃審査會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

地代家賃審査會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 地方長官必要アリト認ムルトキハ貸主ニ對シ地代若ハ家賃ニ關スル帳簿ノ作成ヲ命ジ又ハ下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ付家賃其ノ他ノ條件ヲ借家ノ見易キ箇所ニ掲ホスベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十二條 地方長官必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ借地又ハ借家ニ關シ貸主、貸主ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ若ハ借主ヨリ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ日出ヨリ日没迄ノ間借地、借家其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ借地、借家ノ契約書、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十三條 第三條、第四條、第六條、第九條及第十條ノ規定ハ敷金、修繕費ノ負擔其ノ他地代又ハ家賃以外ノ借地又ハ借家ノ條件ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

第十四條 貸主ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條第一項（前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 本令ハ國又ハ道府縣ガ貸主タル借地又ハ借家ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條 本令中厚生大臣トアハル朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トシ昭和十三年八月四日トアルハ朝鮮ニ在リテハ昭和十三年十二月三十一日、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年九月十八日トス

朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ地代家賃審査會ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

附 則

第十七條 本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年勅令第七百四號地代家賃統制令（以下再令ト稱ス）ハ昭和十六年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第十九條 舊令ニ基キテ爲シタル許可、命令又ハ許可申請ハ之ヲ本令ニ基キテ爲シタル許可、命令又ハ許可申請ト看做ス

第二十條 舊令第十三條、第十四條第一項及第十五條ノ規定ハ昭和十五年十月十九日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年六月三十日）後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第二十一條 舊令第十三條ニ規定スル借地又ハ借家ニ付本令施行後地代又ハ家賃ノ回復セラレタル場合ニ

於テハ其ノ回復セラレタル地代又ハ家賃ヲ以テ第三條第一項第一號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第二十二條 本令施行後罰令第十四條第一項ノ裁判、和解又ハ調停ニ依リ増額セラレタル地代又ハ家賃ハ之ヲ第三條第一項第一號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第二十三條 第六條ノ規定ハ舊令第十四條第一項ノ裁判、和解又ハ調停ニ依リ増額セラレタル地代又ハ家賃ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十四條 前三條ノ規定ハ舊令第十五條ニ規定スル場合ニ付之ヲ準用ス

〔參照〕
昭和十三年四月一法律第五十五號國家總動員法抄錄

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

○地代家賃統制令施行規則

改正 (昭和十五年十月十九日)
(厚生省令第四十七號)

第一條 地代家賃統制令(以下令ト稱ス)第三條第二項ノ規定ニ依ル届出ハ地代又ハ家賃アルニ至リタルトキヨリ十四日以内ニ左ニ掲グル書類及圖面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

一 地代届又ハ家賃届(様式第一號)

二 借地ニ在リテハ位置及敷地、借家ニ在リテハ位置、敷地及間取ヲ示ス平面略圖

三 其ノ他參考トナルベキ書類又ハ圖面アルトキ其ノ書類又ハ圖面

第二條 令第四條第一項ノ事由アル場合トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ令第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ガ著シク低額ナリト認めラルル場合トス

一 貸主ニ於テ借地ニ付改良工事ヲ施行シ又ハ借家ニ付増築若ハ改造ヲ爲シタルトキ

二 借地又ハ借家ニ對スル租稅其ノ他ノ公課ノ増課

アリタルトキ

三 下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ付光熱費、消耗品費等ノ供益費ノ増嵩スルニ至リタルトキ

四 裸貸ヲ附貸ニ改ムル等借主ノ利益ニ借地又ハ借家ノ條件ヲ改メタルトキ

五 前各號ニ準ズル事情其ノ他特別ノ事由アルトキ

第三條 令第四條第一項ノ許可ノ申請ヲ爲スニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ提出スベシ

一 申請者ノ氏名及住所又ハ名稱、代表者ノ氏名及主タル事務所ノ所在地(管理人アルトキハ其ノ氏名及住所ヲ併記スルコト)

二 令第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ヲ超エテ定メントスル地代又ハ家賃

三 増額ノ施行期日

増額ヲ爲サントスル事由(第一條第何號ニ該當スル旨ヲ併記スルコト)

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類及圖面ヲ添附スベシ

一 借地調書又ハ借家調書(様式第二號)

二 借地ニ在リテハ位置及敷地、借家ニ在リテハ位

置、敷地及間取ヲ示ス平面略圖

三 其ノ他參考トナルベキ書類又ハ圖面アルトキハ
其ノ書類又ハ圖面

第四條 令第五條ノ地代適正標準(年分)ハ土地價格ニ
地方長官ノ定ムル率ヲ乗ジテ得ベキ金額ニ相當スル

額ニ依ルモノトス

第五條 土地價格ハ昭和十三年八月四日以前ニ於ケル
當該土地ノ最後ノ取得價格トス但シ當該土地ニ付取
得價格ナキトキ又ハ其ノ不明若ハ不相當ナルトキハ
昭和十三年八月四日現在ニ於ケル地方長官ノ評價額

トス

第六條 昭和十三年八月五日以後土地ニ付左ノ各號ノ

一ニ該當スル事情アルトキハ地方長官ハ前條ノ土地
價格ヲ修正シタルモノヲ以テ第四條ノ土地價格ト爲

スコトヲ得

一 貸主ニ於テ改良工事ヲ施行シタルトキ

二 貸主ニ於テ受益者負擔金ヲ支拂ヒタルトキ

三 貸主ニ於テ借地權利金ヲ徴收シタルトキ

四 地方長官ニ於テ土地價格修正ノ必要アリト認め

ル事情アリタルトキ

第七條 令第五條ノ家賃適正標準(月分)ハ左ノ各號ノ

金額ニ相當スル額ヲ合算シタルモノニ依ルモノトス

一 建物價格ニ地方長官ノ定ムル率ヲ乗ジテ得ベキ

金額

二 地代又ハ其ノ相當額(月割額)

三 適正ナル火災保險料ニ相當スル額(月割額)

下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ在リテハ
前項ニ規定スル額ニ供益費(月割額)ヲ加算スルモノ

トス

供益費トハ前項ニ規定スル借家ニ於テ貸主ノ負擔ス

ル電気、瓦斯、水道ノ料金其ノ他ノ供益施設ニ要ス

ル費用ヲ謂フ

第八條 建物價格ハ左ニ掲グル金額ノ合計額トス

一 主體建築費

二 附屬設備費(電気、瓦斯、水道、下水溝、門、
塀、物置其ノ他建物ノ使用上必要ナル設備ノ費用)

三 造作費(塋、建具等ノ普通ノ造作ノ備付ニ要ス

ル費用)

第九條 貸主ガ借家ニ付權利金(暖簾代ノ性質ヲ有ス

官貸主ニ對シ左ノ事項ヲ通知スルニ依リ之ヲ爲ス

一 減額後ノ地代又ハ家賃

二 減額ノ實施期日

第十四條 第三條ノ規定ハ令第七條ノ許可ノ申請ニ付
之ヲ準用ス

第十五條 令第八條ノ認可ノ申請ヲ爲スニハ左ニ掲グ

ル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ提出スベシ

一 組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二 組合其ノ他之ニ準ズルモノノ構成員タル資格及
構成員ノ數

三 家賃ノ基準及其ノ借家ノ條件並ニ其ノ實施期日

四 家賃ノ基準及其ノ借家ノ條件ヲ定ム 事由並ニ

其ノ基準及條件ノ根據

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類及圖面ヲ添附
スベシ

一 借家調書(様式第三號)

二 借家ノ位置、敷地及間取ヲ示ス平面略圖

三 定款又ハ規約ノ寫

四 令第八條ノ認可ノ申請ヲ爲スベキ旨ノ決議書又
ハ同意書ノ寫

ルモノヲ除ク)ヲ取得セルトキハ前條ノ建物價格ヨ

リ其ノ額ヲ控除シタルモノヲ以テ第七條第一項第一

號ノ建物價格トス

第十條 地方長官第四條及第七條第一項第一號ノ率ヲ
定メントスルトキハ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ
變更セントスルトキ亦同ジ

第十一條 地方長官第四條又ハ第七條第一項第一號ノ
率ヲ定メタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ告示スベシ

トス

一 第四條又ハ第七條第一項第一號ノ率及其ノ適用

地域

二 前號ノ率ノ決定ニ付前提トシタル借地又ハ借家

ノ條件

三 其ノ他參考トナルベキ事項

第十二條 建物ノ一部タル居室ノ家賃適正標準ハ當該
建物ノ家賃適正標準額ニ付全部ノ居室ノ面積ト其ノ

一部タル居室ノ面積トノ比率ニ依リ定マル額ヲ基準
トス

前項ノ規定ハ建物ノ一部タル室ニシテ居室ニ非ザル
モノノ家賃適正標準ニ付之ヲ準用ス

第十三條 令第六條ノ規定ニ依ル減額ノ命令ハ地方長

第十六條 令第十二條第二項ノ證票ハ様式第四號ニ依

ル

第十七條 令第十三條ノ規定ニ依リ令第三條、第四條

第六條、第九條及第十條ノ規定ヲ準用スル借地又ハ借家ノ條件ハ敷金、修繕費ノ負擔、疊、建具其ノ他ノ造作ニ要スル費用ノ負擔、下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ於ケル供益費ノ負擔、地代又ハ家賃ノ支拂條件及借主ノ貸主ニ給付スル權利金其ノ他ノ財産上ノ利益ニ關スル條件トス

第十八條 第三條及第十三條ノ規定ハ令第十三條ニ掲グル地代又ハ家賃以外ノ借地又ハ借家ノ條件ニ關スルモノニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年十月厚生省令第三十三號地代家賃統制令施行規則第四條ノ規定ハ昭和十五年十月十九日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

(様式略昭和十五年十月十九日官報第四一三六號參照)

○地代家賃審査會官制

(昭和十四年十月二十日) (勅令第七百十八號)

第一條 地代家賃審査會ハ地方長官ノ監督ニ屬シ地代家賃統制令第五條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス

第二條 地代家賃審査會ハ道府縣毎ニ之ヲ置き各道府縣ノ名ヲ冠ス

第三條 地代家賃審査會ハ會長及委員五人以上九人以下ヲ以テ之ヲ組織ス
會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ左ニ掲クル者ニ就キ豫メ地方長官ノ選任シタル者ノ中ヨリ地代家賃審査會開催ノ都度地方長官之ヲ指定ス

一 關係官廳ノ官吏

二 市町村吏員

三 特別ノ知識經驗アル者

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ地方長官ノ指名スル委員其ノ職

附 錄

務ヲ代理ス

第五條 地代家賃審査會ノ會議ハ委員ノ半數以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

地代家賃審査會ノ議決ハ出席シタル委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第六條 地代家賃審査會ハ必要アルトキハ當事者其ノ他適當ト認ムル者ノ意見ヲ聽キ又ハ實地ニ就キ調査スルコトヲ得

第七條 地代家賃審査會ニ幹事及書記若干名ヲ置き地方長官之ヲ任命又ハ委嘱ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス
書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○地代家賃審査會官制中改正ノ件

(昭和十五年十月十六日 勅令第六百七十九號)

地代家賃審査會官制中左ノ通改正ス

第一條中「第五條」ヲ「第十條」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和十四年十月二十日勅令第七百十八號地代家賃

審査會官制抄録

第一條 地代家賃審査會ハ地方長官ノ監督ニ屬シ地

代家賃統制令第五條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セ

シメタル事項ヲ調査審議ス

○國家總動員法抄録

(昭和十三年四月一日法律第五十五號)

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ス
キ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ際シ國防目
的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人
的及物の資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルト
キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、
保險料、賃貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲
スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令
ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必
要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他
ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ
懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス(一乃至五略)

第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ
懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ
罰金ニ處ス(一、二略)

(三) 第三十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ怠リ又ハ虚偽
ノ報告ヲ爲シタル者

記

一 地代家賃ノ騰貴抑制ハ左ノ方針ニ依ルコト

(一) 既設ノ地代家賃間代ハ賃借人ノ變更ノ有無ニ
拘ラス地主家主等ノ自制ニ依リ現在ノ額ヨリ値上
ケヲ爲サシメサルコト

(二) 土地家屋ニ付新ニ地代、家賃、間代ヲ定ムル
場合ハ前號ノ趣旨ニ依リ出來得ル限り低廉ニ定メ
シムルコト

(參考)

新ニ地代家賃ヲ定ムル場合ノ標準

イ、地代ハ附近類地ノ普通ノ地代ニ準シテ定メ
シムルコト

ロ、家賃ハ建築費ヲ考慮シ附近類地ノ同種ノ家
屋ノ普通ノ家賃ニ準シテ定メシムルコト

二 第一項ノ趣旨ノ徹底ヲ圖ル爲左ノ方法ヲ講スルコ
ト

(一) 地主家主等ヲ適當ナル場所ニ集合セシムル等
ノ機會ヲ作り(地主組合、家主組合等アル場合ハ
夫等ノ機關ヲ利用シ)此ノ際自制ニ依リ騰貴ヲ抑
制セントスル趣旨ノ徹底ニ努ムルト共ニ出來得ル

○地代家賃騰貴抑制ニ關スル件依命通牒

厚生省發社第七五號

昭和十三年八月四日

厚生次官
商工次官
內務次官

廳府縣長官殿

地代家賃(以下間代ヲ含ム)ニ關シテハ最近ニ於ケル貸
家ノ拂底又ハ物價ノ昂騰ニ伴ヒ既ニ騰貴セル向モ可有
之一般的ニハ尙今後相當ノ騰貴モ豫想セラレ之カ影響
ハ物價對策上並庶民生活保護上考慮ヲ要スヘキ事案ニ
シテ其ノ騰貴ヲ抑制スルハ極メテ緊要ノ事ト被存候處
右ニ關シテハ不取敢左記ニ依リ貴管内ノ情勢ニ應シ其
ノ抑制ニ關シ適當ノ措置ヲ講セラレ度
迨テ右ニ關スル中央物價委員會答申別紙ノ通ニ有之參
考迄ニ添附致候(別紙略ス)

- 限リ左ノ申合ヲ爲サシメ之カ實行ヲ期セシムルコト
- ト
- イ 時局ニ鑑ミ地代家賃間代ハ現在額以上ニ値上ケテ爲ササルコト
- ロ 貸家ニ付テハ家主ハ建物ノ修繕ヲ怠リ又ハ敷金造作代ヲ増額スル等新ニ借家人ニ負擔ヲ課スルカ如キコトヲ爲ササルコト
- (二) 國民精神總動員運動實施ニ際シテハ右ノ趣旨ノ徹底ヲ圖リ一般ニ自制ノ效果ヲ擧ケシムル様努ムルノ外、左記事項ニ關シテモ講演内容又ハ印刷物等ニ取入レ其ノ趣旨ノ普及徹底ニ努ムルコト
- イ 地代家賃ノ滯納ハ他ノ借主ノ貸借料ニ轉嫁セシムルノ虞アルヲ以テ借地借家人ハ之ヲ滯納セサルコト
- ロ 土地價格ノ昂騰ヲ抑制スル爲土地ノ投機ヲ阻止スルコト
- (三) 土地建物周旋業者ニ對シテハ料金ノ値上ケヲ認メサルハ勿論公定ノ料金ヲ嚴守セシムル様嚴重ニ之カ取締ヲ爲スコト
- (四) 土地ノ狀況ニ依リ市(區)役所、町村役場、町

- 會事務所等ニ地代貸家賃間相談係ヲ設ケシメ(既設ノモノアル向ハ更ニ擴充ヲ圖リ)此ノ際斡旋專業ノミナラス地代家賃間代ノ抑制低下ノ實ヲ擧ケシムル様積極的ニ其ノ機能ヲ發揮セシムルコト
- (五) 軍需工業地帯ニ於テハ勞務者ノ住宅難ノ緩和ヲ圖ル爲工場主ニ對シ勞務者住宅(特ニ獨身者向住宅)ノ建設ニ積極努力ヲ拂フ様勸奨スルコト
- (六) 地方ノ事情ニ應ジ公營住宅ノ建設ヲ勸奨スルコト
- (七) 前各號ノ外地方物價委員會ノ意見ヲ徵スル等適宜ノ方法ニ依リ地方ノ事情ニ應ジタル適切ナル方策ヲ樹立シ之カ實行ニ努ムルコト
- 三 地代家賃問題ハ今後自制ノ效果ヲ擧ケ難キ事態ヲ生スルニ於テハ更ニ強力ナル措置ヲ講スル必要アルヲ以テ常ニ管内ノ情勢ヲ考察シ適宜ノ措置ヲ講スルト共ニ其ノ情勢ニ付テハ常ニ遲滯ナク報告スルコト

附 錄 終